

# こども通信

もう12月。冬のシーズン到来です。様々なことがあった1年が終わろうとしています。コロナとの闘いはどうなるのでしょうか。次の新しい年に、どうも引き継ぎそうです。

穏やかな年末年始を過ごしたいものです。

\* \* \*

2021年は激変の年でした。多くの方にとって、記憶に残る一年になったことでしょう。

当地では1月に豪雪。わずか数日で街が雪に埋もれ、交通が麻痺状態に。休診にこそしませんでした。診療時間を早く切り上げる「時短」は初めてのことでした。そんな中でも、受診に来られる方々や、出勤して働く職員には頭が下がる思いでした。これぞ雪国根性(?)。



コロナ対応は2年目になりました。昨年造ったドライブスルー(会計、薬局)が活躍し、夏にはさらに屋外受付を設置。病児保育室の入室前に抗原検査も実施しました。

コロナ予防接種も初めての経験。個人医院ではありませんが、医師数やスタッフ数に余裕があり、隔離棟(ワクチンセンター)を有するなど、条件が整っているために個別接種を積極的に行いました。多い時で1週間に数百人を実施。

夏前になって、国からのワクチン供給が絶たれ、縮小を余儀なくされました。この時は本当にガッカリ。怒りすら覚えています。病児保育室が手狭になり、増築工事を実施。今月から余裕のある環境

**塚田こども医院**  
 小児科・アレルギー科  
 漢方内科  
 .....  
 上越市栄町 2-2-25  
 TEL 025-544-7777(代)  
 025-544-7779(保育室)  
 FAX 025-544-8456  
 .....  
 各種ネット予約  
[www.0255447777.com/i](http://www.0255447777.com/i)  
 ホームページ  
[www.kodomo-iin.com](http://www.kodomo-iin.com)

で過ごせることでしょう。新型コロナウイルスの第5波がほぼ収束し、やれやれと思っていたところ、またもや変異株の出現。それも史上最高(最悪)になりそうなオミクロン株。次の第6波が、不気味です。感染予防の手段は同じです。引き続きしっかりと警戒をしながら、新しい年をお迎えください。

## 感染症情報

このところ**感染性胃腸炎**の発生数が増加しています。いくつかの保育園などで集団発生も起きているようです。手洗いをこまめに行うなど、予防に努めてください。子どもがかかると脱水や低血糖になりやすく、早めの対処が必要です。顔色が悪い、ぐったりしているなどは、悪い状態のサインです。

このほかでは**溶連菌感染症**、**アデノウイルス性咽頭炎**などが少しずつ発生があります。いずれも咽頭痛と発熱が特徴で、登園停止の扱いです。溶連菌感染症には抗菌薬による治療をおこないます。

全国で**手足口病**の流行がおきていますが、当地では発生は見られていません。一応注意しててください。

ほかに感染症の大きな流行はありません。このところ寒い日が多くなり、普通感冒(風邪)が増えています。体調管理に気をつけてお過ごしください。

**新型コロナウイルス感染症**は日本ではほぼ収束状態になりましたが、世界に目をやるとヨーロッパ、アメリカでは大規模な流行がおきています。隣国の韓国でも同様です。

さらに南アフリカで出現した変異株(オミクロン)は、変異の程度が強く、世界的な脅威になる可能性があります。今後の情報に注視しててください。

感染予防策は同じです。マスク、手洗いなど引き続きお願いします。

## 今月の予定

### 年末年始の休診

**12月30日(木) ~ 1月3日(月)**

**※病児保育室は29日(水)から休みです**

### 院長・副院長出務

上越市夜間診療所勤務 15日(副院長)

上越有線放送 「健康ライフ」16日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃~(76.1MHz)

### 感染症情報(毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃~

上越有線放送: 月曜午後6時~(番組内)

医院ホームページ内

## やっ！と積極的勧奨へ

子宮頸がんは20代から30代の若い女性がかかることが多く、日本でも毎年1万人以上の発症があります。

その多くはヒトパピローマウイルス（HPV）という特定のウイルス感染がきっかけになっていて、それを予防することができれば、子宮頸がんを予防することができます。

このワクチンは以前からすでにあり、欧米などの先進国ではしっかりと実績があります。ワクチン接種により子宮頸がんの発生数が9割減少したという報告もあります。

## ●日本での歴史

子宮頸がんの予防接種  
(ガーダシル)

## 【法定接種】

- ・小学6年～高校1年に相当する女性
- ・3回の接種  
(1回目の接種のあと2か月後に2回目、6か月後に3回目を接種)
- ・筋肉内注射

日本の導入は今から10年ほど前。2010年に任意接種への公費助成が始まり、2013年4月に法廷接種になりました。

しかし、わずか2か月後に積極的勧奨を止めるという事態に。接種後に副作用が問題になったためです。

一番多いのが注射後に失神を起すこと。これは緊張感が強いと、特に若い女性には起きやすいものです。「筋肉注射」で接種を行うのですが、日本では「皮下接種」が多く、受ける方も、そして私たち医師も慣れていなかったことが事の発端です。とても痛いものと思ひ、緊張させてしまったようです。

筋肉注射と言えば新型コロナワクチンがそうです。やはり日本では馴染みがないので、当初は心配する声がありました。実際には皮下注射よりも痛みが少ないものです。

HPVは薬液の都合で、痛みはありますが、その程度はさほどではないようです。接種する医師もコロナワクチンのお陰で（笑）、筋肉注射に慣れたので、リラックスして受けてください。

もう一つの副作用として問題になったのが、全身の疼痛です。注射部位とは関係なく、また手足が動かないなどの訴えもありました。

テレビや新聞がこれを大きく取り上げたために、このワクチンがとても怖いという思い込みが広がってしまいました。

実はこれは注射という痛みを伴う医療行為が引き起こした心因反応で、ワクチンの成分が原因ではありません。それは他の医療行為でも同様に起きることからも分かっています（献血や採血後にも起きます）。

また、その後の調査で、HPV接種を受けた人たちと、受けてない人たちの間での発生率に差がないことも確認されました。

## ●8年の空白

積極的勧奨はしない、という方針にはなりましたが、法的な扱いはそのままでした。「受けてもいいけれど、それは自己責任で」という、何とも無責任な態度でした。

そのために接種率は激減し、約2%に落ち込みました。世界中で子

宮頸がんの発症が確実に減少してきたことと対照的に、日本の女性は放置されたと言えます。この間の代償はとても大きいものがあります。

## ●再度、積極的勧奨へ

国はようやく重い腰をあげ、積極的勧奨をすることを決めました。来年度からの措置ですが、体制が整った自治体は直ちに始めて良いともしました。

さらに「空白の8年間」のために接種を逃してしまった女性（概ね24歳まで）へのキャッチアップ接種も予定しているとのこと。

法定接種という制度は今でも変わらずにあります。自治体からの接種案内がなくても、今すぐに接種できます。（むしろ、一斉に接種が始まると混乱するかもしれないので、今から始めた方がスムーズに接種できそうです）

HPVに限らずワクチンは重要な感染症予防策。有効であり、副作用が少ないことが条件になりますが、必要なワクチン接種がきちんとできる体制づくりが必要です。